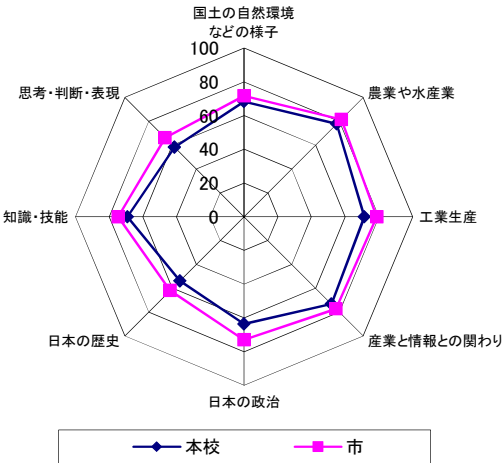


宇都宮市立宝木小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.3	71.6	67.5
	農業や水産業	77.8	81.5	82.1
	工業生産	71.4	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	73.2	77.2	68.2
	日本の政治	63.6	73.1	77.9
	日本の歴史	53.8	62.0	65.8
観点別	知識・技能	69.2	74.6	74.5
	思考・判断・表現	58.3	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	本校の正答率は、市の平均と比べるとやや低い。 ○日本の周辺の海洋名を選ぶ問題の正答率は、85.9%と市の平均と同等である。 ●資料に着目して、森林の働きを捉え、記述する問題の正答率は、67.7%と市の平均より9.4ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本周辺の海洋名など、知識の定着が必要な問題に関しては、繰り返しノートやワークシートへの書き込みをしてきた結果が表れたと考えられる。資料を読み取り、知識を文章化して記述する問題の正答率が低いことから、知識は定着しているものの自分の言葉で文章化することが苦手であると考えられる。知識を文章化できる力を身に付けるために、授業を中心に知識を生かして、考えや文をまとめる活動を増やし、知識を活用する力を伸ばしていきたい。
農業や水産業	本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。 ○地産地消の取り組みについて選択する問題の正答率は、78.8%と8割近い正答率である。 ●都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量についての表を読み取る問題の正答率は75.8%と市の平均より3.8ポイント低い。	・資料を読み取り、考えをまとめる力を伸ばしていくために、資料を活用した授業を充実させていきたい。都道府県の位置が不確かなため、白地図に書き表されたことを結びつけることができない傾向がみられる。都道府県の位置と名前については、4年生から繰り返し学習し、確実に理解できるようにしていきたい。併せて、各都道府県における農産物の産地を結び付けられるよう手立てを工夫していきたい。
工業生産	本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。 ○自動車工場の作業工程の理解をもとに、作業の順番に並び変える問題の正答率は、92.9%と市の平均と同等である。 ●円グラフから日本の輸出品について読み取り、選択する問題の正答率は、66.7%と市の平均より14.8ポイント低い。	・自動車工場については、実際に工場見学に行けなかったが、映像などの資料を利用する授業を展開した。視覚的に学べたことから、実感を伴った授業づくりが行えたため、知識の定着に繋がった。今後も、授業の工夫を行うことで、知識の定着を図っていききたい。また、グラフから読み取る力は全体的に弱いいため、授業等で読み取る活動やワークシートを活用するなどの時間を増やして、力を高められるようにしていきたい。
産業と情報との関わり	本校の平均正答率は、市の平均より低い。 ○メディアの特徴から名称を答える問題の正答率は、90.9%と9割を超えている。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、情報を活用するメリットについて選択する問題の正答率は、55.6%と市の平均より7.2ポイント低い。	・メディアについては、テレビやインターネットをはじめ、関心を高くもっており、普段の生活にも深く関係していることから、生活と結びつけて考えることができたため、正答率が高くなったと考えられる。逆に生活と結び付けづらいものについては、知識の定着が弱いため、今後は、間接的にも社会と自分の生活が結び付いていることを理解させながら、学習を進めていきたい。
日本の政治	本校の平均正答率は、市の平均より低い。 ○三権分立の仕組みについて図から読み取り、文章の穴埋めをする問題の正答率は、77.8%と8割近い正答率である。 ●日本国憲法の説明として正しいものを選択する問題の正答率は、60.6%と市の平均より16ポイント低い。	・三権分立の仕組みから穴埋めで「税金」と記述する問題では、資料と文章の文言から読み取りができた児童が多くみられた。しかし、日本国憲法や政治の仕組みについての用語や機能などは、知識として身につけている児童が少ない。内容と用語を結び付け、問われていることに対して適切に答えられるよう、繰り返し学習し、知識を身に付けさせたい。
日本の歴史	本校の平均正答率は、市の平均と比べると低い。 ○15世紀から17世紀の出来事について、適切な見出しを判断し、選択する問題の正答率は、69.7%と市の平均と同等である。 ●江戸幕府の大名支配について、適切な見出しを判断し選択する問題の正答率は、47.5%と市の平均より19.2ポイント低い。	・歴史については、興味、関心があり、意欲的に学習に取り組んでいる児童が多く見られる。しかし、歴史的事象を漠然としか捉えられていない児童も多いため、知識として定着している割合が低く感じられる。それぞれの歴史的事象に対し、資料を活用したり、読み取ったりする活動を増やすことで、具体的に事象を捉えさせられるようにしていきたい。